

中国四国土を考える会 2025 夏期研修会を開催しました。

2025年8月27日

8月8・9日の2日間にわたり、岡山県・広島県にて中国四国土を考える会の夏期研修会を開催いたしました。

【乾田直播ほ場 弾丸視察ツアー】と題した企画で、昨年の島根・鳥取での開催に続く第2弾となります。今回の研修では、5名の乾田直播実証者のほ場を訪問し、作業体系、作業時期、品種と播種量、栽培面積、除草剤の使用法、収量、施肥設計といった栽培概要のほか、導入に至った背景や、課題解決に向けた工夫や取り組みの話伺いました。また、農研機構 西日本農業研究センターの岡本、藤本両氏から視察先の取り組みについて解説をいただきました。



岡本氏

藤本氏

①株式会社 岡本農産(岡山県)

大麦の後作ほ場で不耕起による乾田直播に取り組んでおり、作業期間が限られる中で、作業時間の短縮を図る工夫について伺いました。



不耕起播種機



②サニーファームまさだ 株式会社(岡山県)

三代続けて乾田直播に取り組んでいます。効率向上に加えて多収を目指した施肥の工夫などについて伺いました。



③今田畜産(広島県)

不整形ほ場が多い中山間地で、家畜ふんたい肥利用や雑草防除の改善などで増収へと繋がった事例の紹介をいただきました。



④重永農産(広島県)

中山間地ほ場において、ほ場ごとに発生する異なる雑草に対応した除草剤の選択と防除体系など、雑草防除に工夫を凝らした取り組みを伺いました。



⑤株式会社 恵(広島県)

次世代へつなげる農業を目指した大規模化・乾田直播を進めるために、30筆を合筆して整備された1.4ha大区画ほ場での乾田直播を視察し、施肥や薬剤散布などについてお話をいただきました。



合筆したほ場



岡山県では不耕起播種機やスリップローラーシーダー、広島県ではドリルシーダーによる播種といった作業機の違いも比較できました。中四国のみならず、九州・近畿からの参加もあり、それぞれの地域に持ち帰って技術改善につながるヒントが多数得られる研修となりました。また、新たな技術や方法に挑戦する視察先の若い生産者の姿勢が、参加者に大きな刺激となりました。さらに、作業機メーカー各社による情報提供や、宿泊先での懇親会による交流もあり、盛りだくさんの内容となりました。中国四国土を考える会夏期研修会は勝部会長のご挨拶により、盛況のうちに締めくくられました。



勝部会長